

Hospitality

地域のホスピタリティを訪ねて



『発達障がいあるある万年日めくりカレンダー』を作りました

はらぺこ会(江津市の子どもの社会参加を考える会)

会長 仁木 一枝(にき・かずえ)

「はらぺこ会」のこと

私には二人の発達障がいの子供がいます。悩みながらの子育てまっただ中の9年前、自分の子どものことや、発達障がいについて、周りの皆さんに知って頂きたくて、この会を立ち上げました。

この会は、障がい児者とその保護者と地域のボランティアで構成されていて、余暇活動の充実と、地域の人とのふれあいを大切に活動しています。

主な4つの事業は

- ◆『ぷれジョブ』 身近なお店などで本物のお仕事体験をし、ボランティアさんやお店の人とのふれあいの喜びを感じています。
- ◆『はらぺこファーム』 経験豊かなボランティアさんと一緒に、農園活動をします。収穫の喜びを感じ、自然にふれあう体験を積んでいます。
- ◆『はらぺこ卓球クラブ』 日頃の運動不足解消と、ゲームを通して感情のコントロールを学びます。
- ◆『障がいへの啓発活動』 近隣のイベント会場にてポップコーン屋を出店し、活動の紹介をします。



ぷれジョブ



障がいへの啓発活動

より理解してもらうために

私たちの子どもは、発達にアンバランスで凸凹があり、できないことをさぼっているとか努力不足だと勘違いされ、叱られてばかり・・・という悩みを保護者仲間から聞くことがよくあります。見た目にはわかりにくい障がいのため、その生きづらさは、他の人には想像できません。そこで、発達障がいの特性を万年日めくりカレンダーに

することで、毎日目を通し、その理解を深めてもらいたいと考え、昨年度、赤い羽根共同募金『テーマ型募金』に挑戦しました。

江津市余芸大会・街頭などで、また会員がご近所や知人を周って、募金の使い道、目的などを一人ひとりに丁寧に説明しました。

そして、目標金額(10万円)を大幅に上回ることができました。200人以上の方が趣旨に共感してくださり、大変喜んでます。

『発達障がいあるある万年日めくりカレンダー』制作について

カレンダーの内容は、当事者や家族から募集し、自閉症協会の各部会で話題となった出来事も参考にしました。島根県発達支援センターウインド様のご協力も頂きました。

そして、イラストは今治市在住のADHDの漫画家あーさんにお願ひしました。ご自身の経験もあり、わかりやすいイラストを描いてくださいました。

カレンダーは、ただ今、江津市内各学校(教室数分)と寄付者返礼分を配布中です。

多くの方に見て頂きたいカレンダーに仕上がりました。そして、今年度も再び募金活動をし、増刷して県内の学校・関係機関に配布する予定です。

最後に、障がいのある(生きづらさを持つ)彼ら彼女らの社会への参加には、あたたかいまなざしと合理的配慮が必要です。すべての人が幸せを感じて暮らせる社会となることを願っています。

